

No. 1408

増税なき行革

全国から募集され、集まった2万通の中から第1位に選ばれた行政改革の標語。

「行革は國も地方も待ったなし」大きくなりすぎた行政部門の見直しを行う行政改革を実現するため、広く国民の理解を得ようと、全国各地で一日臨調が開かれました。愛知県の名古屋では土光敏夫会長らと地元代表の間で活発な意見が交換されました。7月10日、第二次臨時行政調査会がまとめた「行財政改革に関する第一次答申」が土光会長から鈴木首相に手渡されました。答申をうけた鈴木首相、行革に政治生命をかけるという首相の真価がこれから問われるところです。

南飛騨の円空展

—岐阜・萩原—

飛騨の風土とあたたかい人情をこよなく愛した円空上人は生涯のうち3回にわたってこの地を訪れ、彫像に精魂を傾けましたいま円空上人の生誕350年を記念して南飛騨の円空展が岐阜県萩原町の禅昌寺歴史資料館で開かれています。この展示会には南飛騨地方に残る円空作の仏像100余体が一堂に集められています。“飛騨の剣のかけはひまもなし、守る命はいそぎいそぎに”と円空上人は寸暇を惜んで彫像を続けた。そのひとつひとつに無限の慈悲が満ちあふれています。庶民の悲願が染み込み不思議な魅力で語りかけてくる仏像、永遠に人々の敬愛を集めることでしょう。この展示会は8月10日まで開かれています。

“岸壁の母”逝く

大ヒットした「岸壁の母」は、ひたすら息子の帰りを待つ母の姿をうたったものである。「岸壁の母」のモデルとなった端野いせさんの1人息子、新二さんは昭和19年、中国東北地区（旧満州）で応召。昭和20年8月、ソ連軍が進攻し、各地で戦闘が起き、この時、新二さんは消息不明となった。生存者はことごとく捕虜となり、シベリアで収容所生活を送った。幸運にも生きながらえた人は、その後本国送還となり、祖国の土を踏んだ。「新二を知りませんか？」再会で喜びのあふれる岸壁にいせさんの叫び声が響き渡った。いせさんは引揚げ船が着くたびに岸壁に立ち息子の姿を探した。そうした姿が、うたわれたのだった。昭和31年、新二さんは戦死したものと判定された。いせさんは、それでも息子の生存を信じて生きてきた。昭和54年、新二さんを見たという人が現わられた。しかし、確証は得られなかった。こうした中で昭和56年7月1日、いせさんはついに新二さんの姿を見ることなく他界してしまった。日本には、こうした夫や子供の生存を今も信じて待ち続ける人が2000人もいる。